

北東アジア農政研究フォーラム 第10回国際シンポジウムについて

北東アジア農政研究フォーラム (FANEA)

6月12日(木)に、大韓民国ソウル市において、「農業の6次産業化と新たな価値の創造」をテーマに日中韓3カ国による国際シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、2003年に韓国農村経済研究院(KREI: Korea Rural Economic Institute)、中国農業科学院農業経済発展研究所(IAED/CAAS: Institute of Agricultural Economics and Development, Chinese Academy of Agricultural Sciences)及び日本の農林水産政策研究所の3研究機関により発足した北東アジア農政研究フォーラム(FANEA: Forum for Agricultural Policy Research in North East Asia)の一環として、各国持ち回りで開催しているもので、今回が10回目となります。

農林水産政策研究所(以下、政策研)からは、吉村馨所長他6名(小林茂典, 上林篤幸, 井上荘太郎, 樋口倫生, 國井大輔, 澤内大輔)が出席し、中国からはIAEDの秦富(QIN Fu)所長他5名、韓国からはKREIのCHOI Sei-Kyun院長他多数が出席しました。

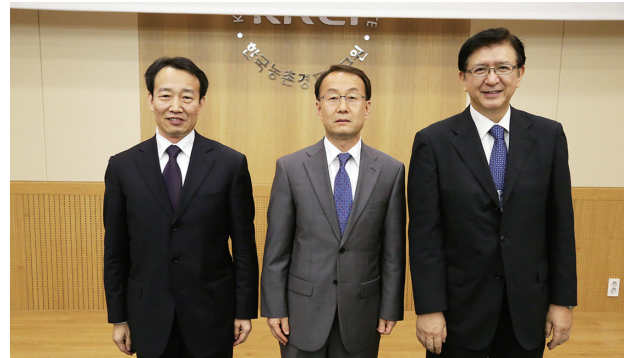


日本からの参加者(左から澤内, 樋口, 小林, 吉村所長, 上林, 井上, 國井)

日中韓所長会議

シンポジウムに先立つ6月11日(水)夜に、日中韓3研究機関の所長会議が開催されました。次回の第11回日中韓シンポジウムについて意見交換が行われ、来年度は中国北京市で開催し、「直接支払等の農

業・農村政策の評価」と「条件不利地域の農業・農村の問題と対策」をテーマとすること、3研究機関の国際共同研究の実施を検討すること等が議論されました。



左から秦所長(中国IAED), CHOI院長(韓国KREI), 吉村所長(政策研)

シンポジウムの概要

今回のシンポジウムは「農業の6次産業化」と「農業の新たな価値の創造」という2つのセッションに分けて行われました。開会式では韓国KREIのCHOI院長、日本の政策研の吉村所長、中国IAEDの秦所長の順番で挨拶し、日中韓3カ国が現状と目指す方向などを発表し議論することの意義が強調されました。

セッションI「農業の6次産業化」

セッションIは、日本の政策研の吉村所長が座長となり、報告・討議が行われました。

まず、開催国韓国KREIのKIM Yong-Lyoul氏から「韓国における6次産業化と政策」というタイトルで報告がなされ、農業の6次産業化のビジネス戦略の成功には、徹底した創業計画、地域資源の発掘と活用、事業主体の組織化、段階的推進、地域内の相互協力を通じた協力システムの構築が必要であることが強調されました。

次に、日本の政策研から小林上席主任研究官が「日本における6次産業化の現状と政策」というタイトルで報告を行いました。現在の日本で実施されている6次産業化に係る施策の概要、6次産業化をタイプ分けする際の視点、6次産業化類似政策とし

でのEUを中心とする農村イノベーション政策に関する報告等を行い、バリューチェーンの構築の際に農業者の受益率が高くなる設計を行うことが重要との指摘を行いました。



セッションⅠの報告（報告者：小林上席主任研究官）

続いて、中国IAEDのLIU Jing氏から「中国における6次産業化：課題と傾向」というタイトルで報告が行われました。中国は農業の産業化が急速に進んでおり、その中心に竜頭企業（竜の頭のように農家をリードする企業）があると述べ、中国農業の6次産業としての発展のためには大手企業の開発を継続し、産業部門の指導者の養成が必要だと強調しました。

昼食前には韓国農林畜産食品部のLEE Dong-Phil長官（農林大臣に相当）が基調演説し、「農村地域の雇用増加が低調で、人口の過疎化・高齢化が深刻化している中、農業の6次産業化により農業の付加価値を増大させ、農村の活力を高め、地域コミュニティを存続することができる」と6次産業化政策への期待を述べられました。

昼食後に、韓国KREIのKIM Tae-Gon氏、中国IAEDのWANG Xiudong氏と日本の政策研の井上主任研究官の3人を討議者としてセッションⅠの討議が行われました。井上主任研究官は、午前中の日本の報告の要点を確認した上で、韓国、中国の報告にコメントし、さらに、日本の6次産業化政策による支援対象が関連産業企業に拡大することの諸問題や、日本と韓国の6次産業化政策の相違点などについて議論を提起しました。

なお、セッションⅠのテーマの「農業の6次産業化」については、日中韓の3研究機関の共同研究の成果を一冊の報告書にまとめ刊行することになって

おり、互いの研究結果を比較して発表・議論するなど意義の大きいものとなりました。

セッションⅡ「農業の新たな価値の創造」

セッションⅡは、中国IAEDの秦所長が座長となり、報告・討議が行われました。

まず、韓国KREIのKIM Hong-Sang氏から、「農業の新たな価値創造のための技術の集約」と題して、主に韓国の農業・食品産業におけるICT（情報通信技術）、BT（バイオテクノロジー）、NT（ナノテクノロジー）等先端技術の活用に関する報告が行われました。

次に、日本の政策研から國井研究員が「住民による地域資源としての薪利用の評価」について報告し、資源・環境・経済という多角的側面から地域住民の内発的活動としての薪利用の効果を定量的に評価した結果、灯油から薪への転換は温室効果ガスの排出削減に寄与するほか、家庭の暖房費節約と町内の資金循環の増加を同時に達成し地域経済にプラスの影響を与えること等を示しました。

続いて、中国IAEDのZHAO Zhijun氏から、「新しい形の中国農業の展開：概念・種類・組織と促進方策」というタイトルの下で、アグロツーリズム（観光＋農業）等の新たな中国農業活性化の諸形態に関する報告が行われました。

その後、韓国KREIのKIM Yean-Jung氏、中国IAEDのSUN Weilin氏と日本の政策研の澤内研究員の3人を討議者としてセッションⅡの討議が行われました。討議の中で澤内研究員は、國井研究員の報告への補足として、日本での木質バイオマスのエネルギー利用の現状や意義について解説しました。



セッションⅡの討議（左から2番目が國井研究員、右から2番目が澤内研究員）